質疑応答

佐々木和子（神戸大学地域連携推進室／司会）　ありがとうございました。ここまでの4本の報告で、まず事実確認等御質問ございましたら、挙手をお願いいたします。どこからでも結構です。

喜田浩一（河北新報）　福島大の柳沼先生に質問します。潰れた車や、黒板、学校の机といった、かなり大きな様々な資料を、多く集めていらっしゃいますが、このような資料をどのような場所で保管しておられるのか。将来開設されるアーカイブ施設の収蔵庫はかなり余裕のあるものを作る必要がありますが、この点はどのように検討されているのか。お聞きしたいと思います。

柳沼賢治（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター）　様々な種類の資料を集めています。アーカイブ施設の収蔵庫は、おおむね学校の教室9～10個程の面積です。消防車などの大きな資料は収蔵先が決まっておりません。今は、雨風をしのげるように、使用していない双葉町の庁舎の倉庫にシートをかぶせて置いてあります。大きな資料は、アーカイブ施設の展示室に入れるよう働きかけていますが、実現しそうにありませんので、復興祈念公園での屋外展示を検討していただきたいと申し入れています。

喜田　アーカイブ施設の収蔵庫は、文書とそれ以外の資料も入れて、学校の教室9～10個程の面積ということですか。

柳沼　はい。そうです。

佐々木　ほかにありませんか。

川内淳史（東北大学災害科学国際研究所）　喜田さんと柳沼さんの議論の中で、消防車の展示を働きかけたが実現しないというお話がありましたが、現在柳沼さんたちが行っている資料の収集と、将来でき上がるアーカイブ施設の展示部門との関係性は、どのようになっているのか教えてください。

柳沼　活動は別々に行っていますが、意見は言わせていただいています。また、展示の方は県の生涯学習課が展示業者に委託しています。展示業者が展示の構成案を作り、想定される展示資料を挙げていますが、県立博物館や富岡町が収集したものだったりするため、それらを私たちが収集している資料で入れ替えできるかという調整を現在行っています。

佐々木　ほかにいかがでしょうか。

橋本唯子（和歌山大学「教養の森」センター）　柳沼さんの報告の中で、資料は主に寄託にしているということですが、寄託にするということは、要するに展示等で使用する場合には、資料所有者の関係者と常に連絡をとっておく必要があるということだと思います。あえてそうされているというニュアンスでお話されたと思いますが、理由をお聞かせください。

柳沼　町など公的な施設に残っている資料が多いため、結果的にそうなっているということです。町や村の担当者に、寄贈か寄託かを選択してもらうと、寄託ということになります。一方で、川内村の黒板は原物を取りはすして、寄託してもらいましたが、代わりにレプリカをはめ込んで川内村へ貸し出しているという例もあります。

佐々木　ほかにございませんでしょうか。

紙谷寛（神戸大学大学院人文学研究科）　私自身、30年近く大阪の公共図書館で勤めてきました。図書館の郷土資料への対応は手薄で、司書資格取得の時点で郷土資料についての講習はほとんどありません。私の経験から言えば、それを反省して、戦後は郷土資料から地域資料へと名前を変え、積極的に取り組もうという雰囲気はありましたが、その後ほとんど進展しませんでした。もう一つ、法制的に大学図書館は国立学校設置法

と学校設置基準､図書館は図書館法で規定しています。さらに、国の総合図書館である国立国会図書館はまた別の法体系にある。ですので、図書館全体を取りまとめる図書館の法律が必要です。これがないために、何に重点を置いて資料収集するかという、その基本的な規定がなく、現場の者が大変困る。そこで、これからどうすべきかという問題提起をしました。

橋本さんに質問します。歴史資料保全ネット・わかやまの活動内容についてです。私自身近世史料について勉強していますが、和歌山で対応している近世史料の範囲が報告ではわかりませんでした。例えば古文書などが出てくると思いますが、これらに対してどのように取り組んでいるのか。そして、大学の関わり方について、和歌山大学には文学部はありませんので、史料ネットと大学とはどのような関係なのか。歴史を専門に学ぶ学部・学科がない場合はどのように活動しているのかお聞きしたい。

橋本　前半の話は、司書資格コースの中で図書館を取りまく法体系の話や、活動の指針などを学べるものだと思っていたら、一切なく驚いたということが、報告内容にもつながってきます。図書館全体として考えるべき部分は、やはり法体系や規定に戻ってくるのではないかといつも思っています。ですので、このようなことを課題と考えている方がいるのだということはよく分かりました。

後半の、大学が歴史資料の保全にどのように、どこまで関わることができるのか、という質問は、非常に難しいところです｡和歌山大学に文学部はありません。教育学部に数年前まで近世史の先生がいましたが、今は中世史の先生が1人だけです。私は学芸員養成課程の博物館資料論などの授業をしますが、教養の授業なのでシステム工学部の学生も受けています。そうすると、最も初歩の古文書入門でもほとんど理解できず、大変難しいわけです。ですが、その授業の中でもこのような歴史資料保存の話は必ずします。現在、学芸員の資格を取っても学芸員になろう、また実際になることができたという学生はほとんどいません。かつ文学部ではない学生たちが史料保存の問題にどれだけ真剣に取り組めているか、あるいは私がどこまで伝えられているか、大学全体の仕組みとして脆弱な状況がある中で、ご指摘の点は全然できてないというのが実情です。

ただし、近世資料に関しては、和歌山県博物館施設等災害連絡対策会議では、県立博物館や市立博物館の方でも、近世史のプロパーが多くおり、史料ネットの活動に関わっています。全体としてそれぞれが少しずつバックアップして活動を進めていこうと思っている、という現状です。

佐々木　ありがとうございました。

各館からの報告・情報交換

佐々木和子（神戸大学地域連携推進室／司会）　それでは、情報交換会を始めたいと思います。現在やられている図書館さんの取り組みなどをお話していただければと思います。よろしくお願いします。

佐藤奈津子（岩手県立図書館）　岩手県立図書館では、震災資料コーナーを平成24年4月1日に設置しております。図書館1階のフロアの一般図書と郷土資料コーナーの間、書架一連に震災資料コーナーがあります。そこにある資料はごく一部でありまして、一般に流通している図書資料と、各市町村の1枚ものの資料、新聞等を中心に置いています。その他の資料は閉架書庫にあります。

収集資料数は、今年7年目になり減少傾向にあります。特に寄贈資料が減っている状況です。震災当時のものが今から出てくるということはなかなかないと思っていましたが、本日、人と防災未来センターさんのご報告を受けて、まだ皆さんがそれぞれ持っている資料があるのかもしれないと感じました。これからも寄贈などを呼びかけていきたいと思っております。